

法遍寺 から大切な 皆様へ

2022年9月1日

日蓮正宗 年間方針

報恩躍進の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

常に明るく正直な生活

年間実践テーマ

①真剣な勤行・唱題で
歓喜の行動

苦難を開く

勤行・唱題

②僧俗一致の折伏で広布
へ躍進

諦めず

最後まで

③御報恩の登山と寺院参
詣で人材育成湯仰恋慕・朝夕の勤行
家庭訪問・寺院参詣・

支部総登山

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(TEL:0561-54-9226)

相談無料



2022年8月14日 御報恩御講のようす



慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について 住職 近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日顕上人が開基となって、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人様の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

① 講中のみなさまへ「素直に苦楽を見つめる大事」

一生はどう生きても一生である。そこに苦楽の実相があり、苦を離れて楽などあり得ない。苦も楽も寒暖の表われであるが、とらわれがあると物事をありのままに見ることができず、その実相、真実の姿を正しくとらえることができない。苦楽の一喜一憂は根無し草の人生となる。個々の生命には仏性によって顕われる本有(ほんぬ)の姿があり、平らかにいえば「素直で柔軟な心」である。この心は人を強く正しく聡明にし、物事の実相をとらえる。目標を一生成仏におく不動なる信心姿勢の中に素直なる「本有」が顕われ、ここに「安穩」の境界とともに「苦楽の実相」を知るのである。大聖人は仰せになった。「苦を苦と悟り、楽を楽と開き、苦楽とともに思ひ合わせ題目を唱えていきなさい」と。(御書991頁)素直な心で妙法広布に邁進しよう。

② 創価学会に籍を置くみなさまへ(創価学会破門の経緯を知らない方へ その25)

創価学会の宗門への攻撃は突如として始まった。平成2年7月17日、宗門・学会との連絡会議の席上、秋谷会長は「今日は宗門に対して言わせて頂く」と切り出し、口々に宗門や僧侶の批判をはじめ、御法主上人の尊厳を侵す発言にいたった。過日、猥下が池田に対し、登山者の丑寅勤行への参加方針、また東京立川の寺院建設の遅れの事情などを尋ねたことに対し、「外国から疲れてお帰りになったばかりの先生に対して出す話ではない(趣意)」と猥下を批判し、向後の猥下の御発言を封じる意向を示した。そして宗門・僧侶への中傷を矢継ぎ早に羅列したのである。総監はじめ宗門側は、はっきり回答する旨や言うべき事もあったが、学会側はこれを制止し、「今日はこれで」と立ち去ったのであった。(次回 その直後の池田・秋谷のお目通り)

③ 正しい仏教への信仰を知らない方へ(後生のためには現世が必要)

人に哀願する時に「後生だから」という言葉がある。また物を大切にす意で「後生大事」ともいう。これらは生きる今の悲惨さから後生の安楽を願う人の心を表している。本来は、前生・今生・後生の三世の因果律の言葉である。今生の苦楽は前生の業によって決まり、後生の苦楽もまた、今生の業によって決まるゆえに、個々の生き方を教えるのが仏の説き示す法理である。浄土門では後生の極楽往生を願うを説き、現実のこの場所に将来の自分が映っていることを説かない。法華経には「現世安穩・後生善処」と説く。現世に安穩の境界を築き、その先の後生も善処に生まれる約束を説くのである。現実のこの世で苦悩を克服し、安楽境界の実証を獲得する道がここにある。ともに後生を開く真実の道、妙法の信仰を知ろうではないか。